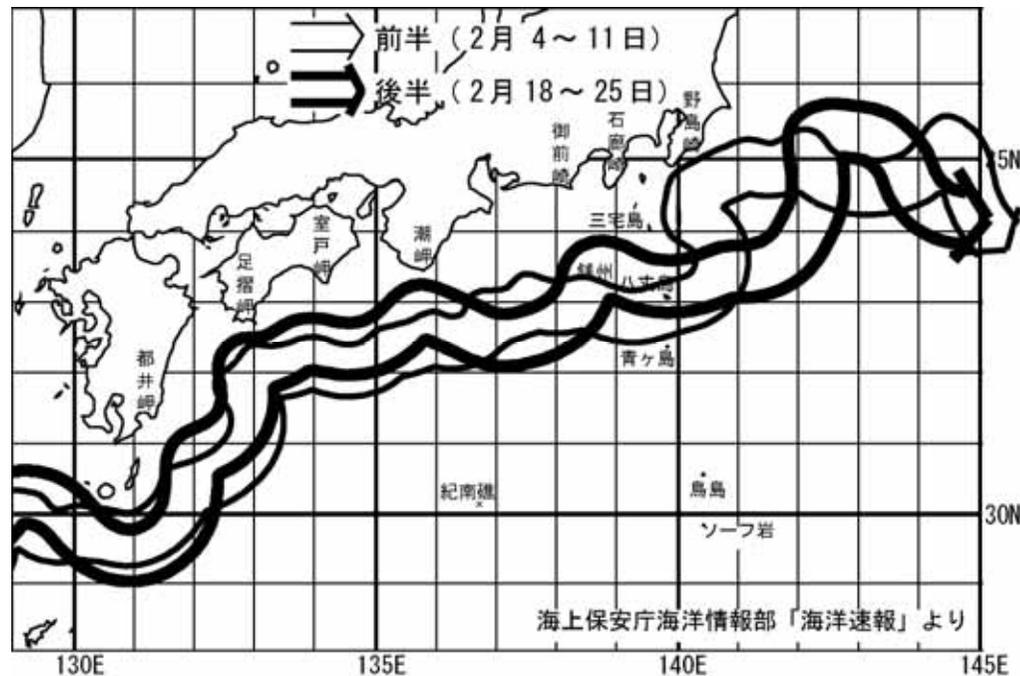


# 漁海況月報

平成28年2月1日

No. 2 ~2月29日

静岡県水産技術研究所  
(電話 054-627-1815)  
静岡県水産術研究所 伊豆分場  
(電話 0558-22-0835)



2月定地水温の旬平均値(°C) (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	14.1	14.7	13.8	14.4	13.1	13.3	10.2
	0.1	0.3	0.0	-0.1	-1.0	-0.3	-1.2
中旬	14.0	14.9	13.9	14.1	13.2	13.7	11.8
	0.1	0.8	0.2	-0.1	-0.8	0.3	0.2
下旬	14.4	15.4	14.3	13.6	12.8	13.3	10.8
	0.7	1.3	0.7	-0.8	-1.0	-0.1	-0.9
月	14.1	15.0	14.0	14.0	13.0	13.4	11.0
	0.3	0.8	0.2	-0.3	-0.9	-0.1	-0.6

## [黒潮流路]

前半の黒潮は、遠州灘沖の33.5°N付近を東に進み、八丈島付近を通過した後、房総半島に向けて北上した。後半は、遠州灘沖には小蛇行が東進した。伊豆諸島西側の33.5°N付近を東に進み、八丈島と三宅島の間を通過した後、142°E付近を北に向かった。

## [県下沿岸域]

上旬は、相模湾側では「平年並」、駿河湾では「平年並」～「やや低め」であった。中旬は、相模湾側では「平年並」～「やや高め」、駿河湾では「平年並」～「やや低め」であった。下旬は、相模湾側では「やや高め」、駿河湾東部では「やや低め」、駿河湾西部では「平年並」～「やや低め」であった。

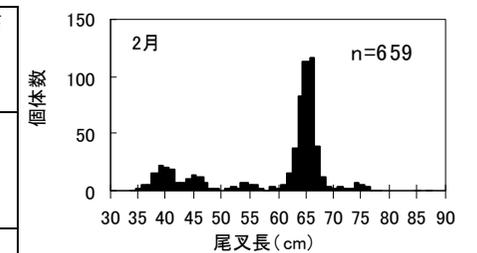
## [竿釣カツオ]

2月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海竿釣り船によるカツオの水揚量は46トンで前年同期の22%であった。魚価は424円/kgで前年同期を上回った。沿岸竿釣り船は水揚げがなかった。

近海竿釣り船は、19~27°N、139~142°Eの中南海域で、特大(尾叉長66cmモード)カツオを主体に極小(尾叉長39cmモード)カツオを漁獲した。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(トン)	水揚隻数	平均水揚量/隻(トン)	平均単価(円/kg)
28年2月上旬	10	2	5.1	385
中旬	23	2	11.7	470
下旬	13	2	6.4	373
28年2月計	46	6	7.7	424
27年2月計	212	9	23.5	230
26年2月計	89	6	14.8	365



御前崎港における測定結果

## [定置網]

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は232トンで前年の同漁場の水揚量(303トン)の0.77倍であった。また、1か統あたりの水揚量は33.1トンで前年(43.2トン)の0.77倍、平年(昭和57~平成27年の平均30.8トン)の1.08倍であった。

魚種別の水揚量は、さば類、マイワシ、カタクチイワシ、ブリ、スルメイカの順に多かった。7か統のうち、さば類は北川漁場が42%、次いで川奈漁場が19%を占めた。マイワシは北川漁場が61%、次いで川奈漁場が25%を占めた。カタクチイワシは古網漁場が68%、伊豆山漁場が15%を占めた。ブリは川奈漁場が37%、北川漁場が30%を占めた。スルメイカは北川漁場が41%、川奈漁場が18%を占めた。

なお、ブリは銘柄ぶり主体で、前年比0.1倍、平年比0.6倍と低調な漁獲であった。但し、1尾あたり重量は9.7kgと、前年(8.1kg)よりも大型であった。また、スルメイカについても、前年比0.4倍、平年比0.4倍と低調な漁獲であった。一方、さば類のうち、マサバは前年比10.6倍、平年比6.1倍と好調な漁獲であった。また、マイワシについても、前年比31.4倍、平年比4.4倍と好調な漁獲であった。

漁場別の水揚量では、北川漁場が98.8トン(マイワシ、さば類、スルメイカ)、川奈漁場が41.4トン(マイワシ、さば類、ブリ)の順に多かった。

<参考表> 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
さば類	94.7	1.2	4.1	北川、川奈、富戸
マイワシ	77.9	31.4	4.4	北川、川奈、富戸
カタクチイワシ	31.6	0.9	0.5	古網、伊豆山、北川
ブリ	12.5	0.1	0.6	川奈、北川、谷津
スルメイカ	12.1	0.4	0.4	北川、川奈、赤沢

**[サバたもすくい棒受網]**

小川港にはマサバが1,185トン(前年同月比158%)、ゴマサバが54トン(前年同月比49%)水揚げされ、1隻あたり水揚量はマサバ24.7トン(前年同月17.4トン)、ゴマサバ1.1トン(前年同月2.6トン)であった。1kgあたり平均単価はマサバ134円で前月(203円)、前年同月(295円)を下回った。ゴマサバは114円で前月(92円)を上回り、前年同月(198円)を下回った。

今月はたもすくい操業し、漁場は月を通じて三本に形成された。マサバは34cmにモードを持つ3歳魚主体、ゴマサバは32cmにモードを持つ3歳魚主体であった。

小川港 さば類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁 場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
28年2月上旬	638	38	7	24	28.7	1.6	126	115	三本
中旬	308	12	4	12	25.7	1.0	146	111	三本
下旬	189	4	4	12	15.8	0.3	147	115	三本
28年2月計	1,185	54	15	48	24.7	1.1	134	114	三本
27年2月	750	110	11	43	17.4	2.6	295	198	三本
26年2月	536	97	13	46	11.7	2.1	193	170	三本

\*水揚量は、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

\*年齢は1月に加齢する。

**[まき網]**

小川港のマイワシの水揚量は512.7トンで平年同期(368.8トン)の1.39倍、前年同期(193.5トン)の2.65倍であった。沼津港のマイワシの水揚量は1,874.3トンで平年同期(592.7トン)の3.16倍、前年同期(647.9トン)の2.89倍であった。静浦港のマイワシの水揚げは無く(平年同期の水揚げも無)伊東港のマイワシの水揚げは282.5トンで(平年同期46.6トン)の6.06倍、前年同期(1.0トン)の282.5倍であった。

カタクチイワシの水揚げは、静浦港、沼津港では無かった。伊東港のカタクチイワシ水揚量は1.0トンで平年同期(121.5トン)の0.8%、前年同期(35.0トン)の2.9%であった。

なお、伊豆東岸定置網8か統の水揚量は、マイワシ78.0トン、カタクチイワシ31.6トンであった。

\*平年同期：過去5か年(平成23年~27年)平均値

**[調査船駿河丸の動向]**

2月 1日 ~ 2月 3日	地先定線観測調査	(3日間)
2月 5日	ドック回航(水技研から造船所へ)	(1日間)
2月 23日	ドック回航(造船所から水技研へ)	(1日間)
2月 24日 ~ 2月 25日	いわし類卵稚仔分布調査(ニューストネット)	(2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA の海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

